

Title	近世猶太主義
Sub Title	
Author	内藤, 智秀(Naito, Chishu)
Publisher	三田史学会
Publication year	1936
Jtitle	史学 Vol.15, No.3 (1936. 11) ,p.39(403)- 52(416)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19361100-0039

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

近世猶太主義

内藤智秀

學者も政治家も外交官も軍人も一つの事を纏める際に若し猶太人の問題を研究する事を忘れて之を除外したならばそれは未成品たるを免れない。それは東洋に於て支那問題を攻究せずに事業を起し學問を纏め又は政治せんとする様なもので、机上の空論又砂上の樓閣となつて終る事であらう。此の猶太問題は華僑、回教と共に本邦に於ても是非研究され又利用されねばならぬ重要な事であらうと考へられる。

今日猶太人は世界に於て一の國家を組織するものでなく、その人口からしても僅かに一千四百四十萬内外に過ぎないが、近代社會のあらゆる方面に多數の人材を出してゐる。例へば哲學の方面ではスピノザ、コレーンの如き乃至はモーゼス・メンデルゾーン、詩人レッシング、ハイネ音楽家フエーリックス・メンデルゾーン更に新詩人としてはダヌンチノオ、其の他物理學者で數學者たるアインシュタインとか

化學者のハーバー又實業家政治家の有名な方ではロスチャイルドとかベーコンスフィールド卿の如き彼等は何れも猶太人である事は拒む事の出来ない事實である。

然るに之等猶太人達は昔から歐米に於ては烈しく排斥されて來た。殊に歐米のキリスト教徒が猶太人達を極端に非難攻撃する。歐米のキリスト教徒が猶太人達を非難排斥する理由を聞くに其の一は猶太人の先祖はキリストを磔刑に處する様に取り計つた即ちキリスト受難の原因は猶太人達の反對によるのであるから、猶太人を嫌惡すると云ふ。又、其の二は歐洲の中世に於てキリスト教徒は其の教によつて金を貸しても金利を取らなかつた時代にも既に猶太教徒は高い金利を請求して巨額の富を作つてゐた。即ち金利を以て富みを作り之を資本に各種の事實に堪能なるものが多かつた。之が彼等キリスト教徒の猶太教徒に對する惡しみの一つであつた。更に第三は猶太人には一種の忌むべき體臭があると云ふのである。猶太人達は自然經濟的な考から安くて滋養分の多いものを口にするので其の食物を異にする關係から他の民族とは異なる體臭を持つわけで、之を非難するのである。是等は一として正しき理由にはあらぬのであるが歐米のキリスト教徒は事實斯く考へる。

即ち猶太人はフランス大革命以前に於て殊に至る所で甚しく迫害されてゐた。例へばフランスに於ける富豪猶太人であつたクルル (Zhak kur 又 Jacques coeur 1400—1456) の如きは英佛戰爭の際にフランスのチャールス七世を助けて財政家として其の功績顯著なるものがあり、又ルイ十一世 (Louis XI) の

治世にも復職して大に其の手腕を振つたのであつた。即ち彼の富は今日の金額にして既に五百萬弗に達し、イギリス、フランスの外イスパニヤ及びイタリー等の諸港に於て東洋貿易に従事し、ルイ九世の父王の時代には政府部内にも重要な地位を占め、其の富はフランスの國王のみならず多數各地の貴族に貸與してゐた。彼は寺院、大學其の他豪華な邸宅等を建造してフランス國內に財政的のみならず政治的にも極めて有力人物となつた。然るに當時のフランスは今日と異つて此の種の猶太人資本家を保護する事をしなかつた。寧ろ只一人で法外の富を所有する事を以て罪惡であるとなさへ考へるものがあつた。それでクールも彼の富が却つて彼に災して彼の財産は沒收されたのみならず彼自らも亦捕縛されたのであつた。

斯様な例はドイツに於ても見られた。フツゲル家の歿落は將にそれを示すものであつた。此の一族は第十五世紀及び第十六世紀に亙る百五十年間に於てドイツのアウグスブルグに榮えたのであつたがヤコブ・フツゲル (Jacob Fugger) の頃から財政的には諸王及び皇帝をも指導した。そして又其の富は今日に換算して三億弗に達しドイツのマキシミリアン及びチャールス五世時代にチロル (Tyrol) の銀山、ホンガリーの銅山等を所有し遂には各所の領土をさへ抵當として所有し、一五一九年になるとチャールス五世の選舉の際其の富を利用して帝の當選を有利にした事もあつた。

フツゲル家は斯様に一面に於て國家の保護の下に大企業を營み、國民からも亦一時は好感を以て迎へ

られたが、然しそれは永くは續かなかつた。他方彼は猶太人であると云ふ事の爲めに上下多數の人々から多大の反感を受け又迫害されたのであつた。

斯様な事件は當時其の他の國々に於ても多く見られた事であつたが、彼等は各地に於て多くは土地を所有する事が許されなかつたので、土地購入の代りに東洋貿易の様な貿易事業の爲めに出資する様になり、それが爲めに却て其の富を増し、富の増加は却つて彼等が社會の惡しみの的となつたのであつた。

敘上の關係を吾々が靜かに考察して見ると、キリスト教徒は傳統的な考へ方から猶太人に對し冷靜な中正の觀察を續ける事が極めて困難な状態にあつた事を知る。然るに我が日本に於ては歴史的には猶太人問題とは直面しなかつた。即ち歴史上本邦に於て彼等の團體的定住を見ず、又吾等の社會に彼等の集團的居住者を見なかつた。支那には後漢の明帝の時代に猶太人が移住して來たと云ふ傳説があり、又宋代になると彼等は開封の教徑胡同に移住し永く猶太教寺院たるシナゴークを有し支那人と雜婚して此の地に既に二個の紀念碑を留め、今日では上海に四個のシナゴーク又ハルピンにも二個のそれを有する位であるから、我が國にも何等かの形式で多少なりと移入したものがあつたかも知れぬが、それは今日に至るまで史上著名な事實となつてはゐない。此の事實は吾々日本人は猶太人問題に對して何等先入思想がなく全く白紙である證據ともなるのである。それだけ又彼等に關し吾が同胞に於ては幾分知識はあつてもそれは歐米を通じての重譯に過ぎなかつた點はまぬかれない。

即ち吾々は歐米人と較べて此の問題に關し根本史料を手にする事は困難でも比較的利害關係が乏しく中正の立場で此の問題を考察する事が出来たのである。然るに世界大戰後我が國が國際政治の本舞臺に於て重要な役目を演ずる様になると、此の世界的に重大なる意味を持つ猶太主義運動と没交渉である事が出来なくなつた。彼等猶太人達は戦争と鬭争に訴へずに自由と平和とを獲得する事を考へ、政治も經濟も共に之を一丸とする國際生活を目標とするのであるから、國際聯盟成立の如きは彼等の最も念願する所であつた。即ち國際聯盟は米國大統領ウィルソンの發意で成立したものでなく、早く一九一七年六月廿八日から三日間猶太人達がパリーのルー・ドガデーに集會し、之にはアメリカのハウス大佐も出席して、出来上つたら此の國際聯盟を猶太人の手に收めんと企圖した事に起るのであると云はれる様に、吾等の國際生活には此の問題が次第に密接な關係を持つ様になつた。又猶太人は聯盟を以て猶太人の占領する天國であると云ひ吾が國が聯盟を脱退する當時聯盟の役員であつたベネシエでもマダリヤイガでも乃至はイーマンの如き又ドラモンドでも悉く猶太人達又は猶太人系の人々であつた。

斯様に當面の問題に直接し大正八年には我が國にも猶太禍の聲を聞いたが歐米のキリスト教諸國に於けるが如く吾々は偏狹な考に捕はれず比較的冷靜に此の問題を考察する事が出来たのであつた。即ち此の問題は學者の終生の研究題目として確に將來性を持つ極めて興味あるものであると考へる。又如何なる角度から眺めても此の問題は極めて重要性を持つのに我が國に於て未だ多く研究されず、尠くとも歴

史家の内に之を専門とするもののあるを未だ聞かないのは残念な事であると考へる。此の意味に於て吾人淺學ながら有爲の學徒を呼び出したいと云ふ意味で本問題について若干を述べて見たいと考へる。

二

資本主義勃興以前の猶太人は前述の通り何の國に於ても、政治的保護を受ける事が出来ず、常に不平等な差別的待遇を受けてゐたが其の後は各地に於て次第に其の權利を認められイギリスでは一八三二年以來彼等に選舉權を與へ、一八五八年からは被選舉權をさへ與へたのであつた。そしてドイツでも一八七一年に又スウイスでは一八七四年にそしてオーストリアでは一八七八年に各彼等に選舉權を賦與したのであつた。ロシヤでは近世に於ても特に猶太人達を迫害したので甚だ有名であるが、一九一七年には大革命に際し彼等を容れた。然し彼等は容易にスラヴ人に合致しない點があるのでソヴェートは極東にユダヤ國を建て、彼等に與へんとしてゐるのである。斯様に彼等は第十九世紀以後は資本家として原則としては他のキリスト教徒等と平等な待遇を受ける様になつた。尙ほ此の近世猶太人達は全體三分して見る事が出来る。其の一は守舊派の猶太主義者達で、其の二は自由主義的な猶太主義者達、そして其の三は國民主義的な猶太主義者達である。

一、守舊派の猶太主義者達は純潔な古來の猶太教の舊習を保持しようとするもので、他國の習俗に轉

換するとか又他宗に轉向する等と云ふ事は全然禁止されるのである。青年達に對しては聖書(Torah)とかシオン聖人の會議錄(Des Protocoles des Sages de Sion)によつて純粹な解釋の知識を授け、實業に従事するものに對しても第一は其の猶太教の聖書に對する忠實を以て眼目とする。そして此の信教に忠實であると云ふ事は彼等にとつては自然多くの犠牲を要求する事ともなる。例へば彼等は其の居住する周圍の事情には非妥協的な態度を取り、宗教的な傳統によつて猶太人の一大文化事業を達成せんとする事を目的とするのである。そして土曜日の休業の如きも商業に熱中する彼等にとつては大打撃であるがそれも敢行しなければならぬ。又今日でも兎角社會的に輕視される猶太人としての服裝を男女共にやつてゐるのみならず、他の宗教徒との結婚は嚴禁されるのである。例へばハンガリーの猶太人がドイツの猶太人と結婚する事があつても等しくハンガリーに住みながらハンガリーの他教徒とは婚姻を通じない。斯様な猶太教徒は之を地理的分布から見ると、猶太人中の二大系統の第一に位するものでロシア、イギリス、その他西部歐洲及び中部歐洲に分布される比較的純なる人々である。彼等はバレスチナの故國が一三五年にローマの爲めに滅されて漂泊の民としてさまよい出てから小アジア及びバルカン半島等の陸路を辿つて遂に西へ轉住したのであつた。殊に彼等はポーランドとかハンガリーに於ては涙ぐましい奮闘さへも續けたのであつた。即ち其の中のロシアの猶太人の如きは特に近世になつてからであるがポグロム(Pogrom)と云ふ切り棄て御免と云ふ様な文字さへをも遺してゐるのは此の種の猶太人に關してな

されたのであつた。

即ち近世になつてからでも斯様に頑強に其の舊俗を傳へ之を嚴守する所に吾々をして考へさせるものがあるのである。古代ギリシヤ人とかローマ人それは文化的にも政治的にも輝しきものであつた。然し其の血統とか舊習維持とか云ふ點に於ては必ずしも此種猶太人達の様なわけには行かなかつた。文化的にはギリシヤもローマも偉大なるものを遺してゐるが其の他の血族とか舊習とか云ふ點に於てはそれよりも古い猶太人の方は更に――純であるのは彼等の頑迷であると云ふ斯様な原因の結果として招來されたのであらう。

即ち此の種守舊派の猶太人達の活動はフランス大革命の原因をなすと云はれ、又世界大戰にも發動する所あつたと云はれ、更にロシヤ大革命にさへ關聯を持つと云はれる。彼等は一方に於て大資本家を有し、大學者を持ちながら、他方共產黨に組みし大動亂に味方する事多い様に見られる。之は一見大なる矛盾の様に考へられるが、國家なき彼等としては自由な政治と民主的な生活を希念するのでそれを得る手段として先づ過激思想にさへ加擔し、そして丁度彼等の欲求する自由な商權を得る事になると云ふ遙かに先きから結果を知つてゐて之を目的に非常手段にさへ加擔するものと見るより外は考へられないのである。勿論まれにはマルクスの様な比較的純な猶太人もあるのであるが、久しきに亙つて迫害された彼等の生活手段に斯様な集團的心情を見るのは蓋し止むを得ざる事でもあらう。

二、之に反して第二の自由派の猶太人達の多數を生む様になつた。此の猶太自由主義者達は守舊派に反對して其の居住地の習俗に化し在來の傳統的な猶太主義を近世的なものに順應せしめようとするので、在來の猶太主義を以て單なる宗教的信仰であると解釋するのである。即ち在來の形式主義の反動としてトルコに入るイスパニヤの猶太人は先づフェズを頭に頂きトルコ語を話し、ギリシヤに入るものはギリシヤ語を話しアラビヤ又はエジプトに入るものは各々其の地方語を話し、甚しきは他種族と婚姻を通じ一見其の地方民と何等變りのない生活を送る。そして利口に現世的生活を送る多數大資本家たる猶太人の内には此の種の自由派のものが極めて多いのである。彼等は意味なき舊習を嚴守する事に反對し、極めて自由な行動を取り彼等の安息日である土曜日にも商賣もすれば書見も書寫もする。そして金錢の受領は勿論旅行もすれば船車にも乗る。又教會の規定する食物以外でも之を取るに憚らない。之等の規定は前に述べた守舊派に於て嚴守してゐるのであるが自由派に於ては極めて放縱で寧ろデカダーンにさへ近い感があるのである。

此の種の猶太人達は故郷パレスチナから追はれると海路西進してイスパニヤとかポルトガル其他エジプト等に渡つたものでアラビヤ地方及び小アジア地方に遣つたものも尠くなかつた。それに世界中の大都會に居住する都會猶太人達は勿論其の他大資本家達は多く此の種に屬する。例へばニューヨークに住する猶太人の如きは略百萬に達し、パレスチナの故郷に住む猶太人の略十四倍にも當るのであるが、

彼等は當然此の種に屬するものと見爲される。そして此の種多數猶太人によつて組織されてゐるフリーメンソンの如きでもニューヨークでは堂々たる看板を其のクラブに掲げてゐるのである。吾が國でもフリーメンソンの會合は大正十年頃から横濱、神戸、東京等に於て時々開催されて來てゐる由であるが、それは何れも外國人のみの會合で、日本人で之に這入つたものは二三人であつたと云ふ。而も之等は極めて内密に催される由であるが、アメリカ殊にフランス等になると彼等はフリーメンソンのクラブを通して政治外交財政等に關係して來るのである。之等は正しく世界の各地に於て偉大なる勢力を以て資本の網を張り各種の事實及び政治にまで關係して來る自由派猶太人達の所業と見爲さるべきであらう。

三

斯様に對立する守舊派と自由派との兩派の猶太人達には各々特徴を有し長所と短所とを持つ。前者の存在は今日尙ほ血統を保持して猶太人を純粹に存續せしむる所以であり、後者の存在は彼等が世界的に各種の方面に偉大なる勢力を有する所以でもある。

三、然るに此の間にあつて近世的國民主義全盛期に於て其等の產物として生れた民族復古派の猶太人の一派が現はれて來た。之はシオニスト (Zionist) と云はれるのであるが、近世猶太國復活運動者の意味で呼ばれるのである。彼等の主張は一八九六年オーストリアのテオドル・ヘルツルに始まると云はれ

るのであるが猶太人が一民族である事を強調するのである。彼等の云ふ所によれば猶太人は其の故郷パレスチナを失つてから各地に轉地混住して世界に散在され幾分外界の言語習慣等を部分的に採用する。然し猶太人は原則として統一的民族の一團體を組織し共通の過去に對する意識と、又共通な將來に對する希望を以て一民族としての感情と意志とを有し、國民的共同團體を組織する一千四百萬餘の猶太人の大多數が各々一員として將に自覺しつゝある事を主張する。彼等の言によれば彼等は獨特の民族で外的權力を欲望するものに非ず、又鬭争を目的とせず、又膨脹を願はず只だ社會的正義の念に於ては容易に他國民の及ぶべからざる理想を有すると云ふのである。

即ち彼等は其の郷國を失つてもその民族意識を失つたものでなく、之を永く持ち續けたのであつた。之はタルムード (Talmud) による猶太教的信條の固執性が遂に彼等の分散と解消とを救ひ、よく神統政治を續けて來たものと見爲すべきであらう。

シオニストの絶叫は久しく續けられて來たが、彼等の聲の大なるに比し其の實行は容易に施行されなかつた。例へば其の故郷に復歸せよと呼はりながら實際之を實行に移すものは極めて尠かつた。例へば一八三九年パレスチナに於ける猶太人は一萬二千であつた。そして四十年餘を経過する一八八〇年にはそれが三萬五千人となつたのみであつた。又二十年を経過した一九〇一年には七萬人であつた。各地の猶太人資本家から募集された資本でパレスチナに於ける耕地は準備せられ、農場も設備されて勞働者に

對する家屋さへ多數建築されたのであつた。大戰前一九〇八年には既に反猶太運動が各所に起つてゐたが、實際パレスチナで耕された農園は五千エーカーに過ぎず之に使用された費用も七萬磅内外に過ぎなかつた。然るに世界大戰中にはイギリスのバルフォアによつて彼等の主張は支援された。そして一九二〇年九月（猶太紀元五六八一年）になると彼等團體の資本金は將に八十萬磅に達した。其の内約八割は土地購入費建築費、他の二割は土地經營費に當てられた。更に一九二一年にはロンドン猶太人會議の決議によつて中央猶太復興協會が設立され、其の後五ヶ年間に此の協會で消費した額は毎年十五萬磅づゝであつた。然るに之等五ヶ年間にパレスチナに移住して來た猶太人は約四萬人に達したが其の多くはポーランド人とか中央アジアの舊ロシア人其の他若干のアメリカ人又は獨逸側の人々で、大戰中聯合側に立つて功績を現はしたものは極めて少かつた。

此のシオニストの内實際パレスチナで開墾に従事してゐるものを見ると多くは耕地に親しみを持たない。大部分はイエルサレムとジャッファ又はハイファ等の都會に於て商賣に従事する。又パレスチナがイギリスの委任統治地になつた關係上此の地に於ける官憲は初代の高級委員サー・ヘルバルト・サムエルを始め多くは猶太系の人々であつた。従つて之等の後援により所謂御用商人は旅館でも運送業でも悉く猶太系のを以て充されるに至つた。又猶太人勞働者の移民の爲めにイエルサレムの停車場に近く一大住宅が建設された。そして學校の如きも世界中の猶太人から募集されたシオニストの施與によつて

小學校が二五五の外一の中學校、二の師範學校、一の音樂學校、三の農學校、一の商業學校、一の工業學校も建てられ、一九二五年四月一日からはイエルサレムに猶太大學さへ開校されたのであつた。

然るに此のシオニストの運動は一九二六年頃から一は財界不況の爲め、一は彼等が農民に適しない爲め次第に惰氣を帯びて來た。そして他方此の地に永住して居たそしてその數に於て約十倍し且つ農民としての勤勞の點に於て遙に猶太人に勝るアラビヤ人と衝突する様になつた。そしてパレスチナに於けるシオニスト移民は次第に不安を感じるに至り、折角建築した家屋の如きも二割位の賣價を以て賣出しても容易に形付かない。尊嚴なるべき猶太大學さへ名のみとなつて、學生の數は教授の數に達しない。寺院（シナゴグ）再建の如きさへ中止の状態となつた。そして彼等は再びアメリカ其他へ移住せんとしてゐたのである。今此の地に三十八萬の猶太人が移住したと云ふのはナチスの猶太人追放の結果である。

要するにシオニズムはインシュタインも云へるが如く一の旗標に過ぎない感があるに至つた。斯様にして猶太人世界には今懷疑時代が到達したのである。民族國家建設の彼等の夢は破れた感がある。

吾等は今猶太人を守舊派と自由派と國民主義派に三分して考察して來た。そして其の後一九三三年以來のドイツ猶太人のナチス派から受けた壓迫を聞く。各國は民族主義的主張が甚だ強い。そして猶太人

は表面上何れも凋落の一路を辿るもの、様に見える。然し吾々は彼等が此の儘に解消するものとは何と
しても考へられないのである。

歴史上から見て彼等は國を失ひ其の郷土から漂ひ出たのである。それから以來彼等は二千年東へ西へ
北へ南と漂泊の旅を續けて來た。然し彼等には古來ギリシヤ人の末期や帝政時代のローマ人等に見られ
ない頑固さを持つ。彼等は血統を尊び、宗教を尊重する。例へ表面同化するかの如く見せかけても其の
固執性と匿されたる自負心とはどうする事も出来ないのである。之が表面上同權を與へられてゐる近世
に於てさへ各國に於て彼等が迫害され壓迫される所以である。默殺さるゝものは亡びるであらうが、壓
迫さるゝものは滅びない。何となれば迫害は弱者の強者に對する集團的、權威的、時代的、威嚇でもあ
るからである。迫害さるゝもの威壓さるゝものは充されざる心を持つ。充たされざる者には努力が伴ふ。
其の努力は死を選ぶ事さへある。死を選ぶ心は偉大なる努力の心である。時に宗教によつて其の充され
ざる心を補ふ。宗教を以て補はれ修繕され復活された猶太人には此所に新なる生産的活動を生む。歴史
は宗教民族たる猶太人の亡びざる所以を教へてくれるのである。默殺は解消を意味し迫害は奮起を意味
するものではあるまいか。